



# 東日本大震災 追悼式

東日本大震災から8年となる3月11日、浪江町内の「如水典礼さくらホール」において、浪江町東日本大震災8周年追悼式が行われ、ご遺族・来賓合わせて124人が出席しました。式の始めに、参加者全員で黙とうをささげ、犠牲になられた方々のご冥福を祈りました。

吉田町長は式辞で、安心して暮らせるまちづくりのために様々な施策を推進し、「町の創建」を実現し、一日も早い、町民の皆さまの生活再建の手助けとふるさと再生を成し遂げる決意を述べました。

続いて、遺族を代表して父親を亡くされた鈴木祥高さん（相馬市在住）が追悼の言葉を述べられました。

追悼の言葉  
遺族代表 鈴木 祥高さん



始めに、いまだにご遺体が見つからない方々のご冥福を祈り、ご遺族の方々にお悔やみ申し上げます。  
あれから8年の月日が経ちました。もう8年なのか、まだ8年なのか、心の中でいくら考えても導かれる答えは出てきません。  
あの数百年、数千年に一度といわれる大地震と沿岸部を襲った大津波を体験し、絶望の淵に立たされた悲しみ、苦しみ、後悔、傷つき、ただぼうぜんとするしかありませんでした。  
私は震災で父を亡くし毎日の生活の中で、父と過ごした温かい時間を思い出します。でも、その思い出もつかの間、あの大きな地震の光景と冷たい泥や無数のがれき、父の遺体と対面した記憶がよみがえり、「もしあの時、一緒に逃げていたら」と思うと後悔で

胸が苦しくなります。時々、時間とは反対に進む気持ちがあります。震災の記憶が少しずつ薄れてゆくのではないかとこの恐怖と胸に閉じ込めた記憶を忘れてはいけないという気持ちです。しかし、それを思い出せば悲しく、後悔と自責の念に駆られます。

震災から8年が過ぎようとする今、震災で多くの尊い命が犠牲になったことを教訓とし、この震災を風化させないためにも、この経験を次の世代に伝えていくことが、私たちが震災を乗り越えた証となる、亡くなられた方への最大の敬意であると思います。

また、身の危険を顧みず救命救助活動、捜索活動に当たっていただいた自衛隊、警察、消防を始めとする多くの皆さまと物心両面でご支援いただいた全国の皆さまへ対して改めて深く感謝申し上げます。

最後に、浪江町はまだまだ除染の推進、雇用・産業の場の確保、地域インフラの整備、農業復旧など、まだまだ課題は山積ですが、ひるむことなく、みんなで力を合わせて一人一人がしっかりと前を向き、一日一日を大切に、一歩ずつ努力していくことを大地震で犠牲となられた方々に改めてお誓い申し上げます。追悼の言葉といたします。

## 行方不明者の捜索が行われました

東日本大震災から8年となる3月11日、福島県警察本部主催による行方不明者の捜索が行われました。

捜索には、浪江町を始め警察や消防本部など関係機関が参加し、浪江町地域スポーツセンターでの集結式後、請戸地区に移動して捜索を行いました。

今回の捜索では、名前が入った診察券など、行方不明者の手掛かりとなるようなものを発見することができました。

